

手競りと外部接続 融合の新サービス

日産大阪オートオークション（吉岡末治社長、大阪市此花区、NOAA）は、手競りとライブ中古車オートオークション（AA）を融合した「手競り・ライブ融合システム」を導入する。会員の利便性向上と競りの活性化を図るのが狙いで、手競りと同時にインターネットを利用したライブ応札や不在入札などが行えるようにする。7月6日の開催から新システムによる競りを始める計画だ。

オーク、スマートフォンやタブレット端末を使った外部応札システムを手掛けるレインソフトウェアーサーブिसを含めた3社のシステムを導入する。現在の手競りはそのままに外部からの応札状況を会場前方に表示。コンダクターが現車会場での手競りとインターネ

ットを介した外部応札の双方を指示することになる。まずは不在応札から導入し、順次リアル応札にも対応する。

会員利便向上と競り活性化

外部応札の導入に併せて車両検査の点数制も取り入れる。車両輸送などを手掛けるゼロによる車両検査業務のサポートを受け、同会場に合った評価基準を設ける計画だ。また、立体駐車場に出品車の撮影室を新設。今後は外装4枚、内装1枚の計5枚の車両写真を掲載する。

同社は手競りと外部接続を融合することで競りを活性化し、出品台数の増加、参加総数を増やし落札単価を引き上げたい考え。また、日産グループとしての中古車流通の活性化も後押ししたい考えだ。

NOAA